

1. 事業名：「中東情勢/実務セミナー」
2. 場 所：イイノホールカンファレンスルーム
- 3・実施日：平成 27 年 9 月 4 日（金） 15：10 ～ 16：50 講演（質疑応答含む）
16：50 ～ 18：00 懇談会
4. 演 題：「イスラム主義との付き合い」
5. 講 師：外務省参与：GCC 及び湾岸地域担当大使 遠藤 茂 氏
6. プログラム：開会挨拶
講演（60 分）
質疑応答（20 分）
懇親会

7. 講演骨子：

今回のセミナーは、中東地域を含め海外での経験が長く、平成 21 年から 24 年まで元サウジアラビア特命全権大使を務められた遠藤茂氏に「イスラム主義との付き合い」と題してご講演いただいた。

前半導入部分は、「アラブの春」以降の中東情勢の概観とイラクとレバントのイスラム国（ISIL）の現状を説明され、続いて何故アラブ湾岸諸国とりわけサウジアラビアが注目されるかについて以下のように言及された。

・湾岸諸国はアラブ世界で唯一安定を維持しており、中でも世界最大の石油産出国サウジアラビアにおいては、湾岸諸国の兄貴分、イスラム総本山としてのポジションを誇り、イスラムに価値をおいた経済社会発展(イスラム主義)を続けている。

・そのイスラム主義とは、イスラムの理念を社会において実現することを理想とし、そのために行動すること。民主化のニーズは認識しているが、自分たちのペース、やり方で進めたいという考えである。

その中で日本が考えること、貢献できることは「信頼醸成」、つまりイスラム世界との対話を積極的に推進し、日本が文明間対話のイニシアティブをとることが重要であると強調された。これは簡単なことではなく長期に亘り忍耐強く継続し、対話が出来る勢力を増やすことが必要であると訴えられた。

ビジネスにおいては、共通のビジョンを策定し、その実現のプロセスを共有すること、そして第三者への共同アプローチを行うことを提案された。とりわけ、遠藤大使は欧米諸国や中東との長い付き合いの中で、彼らの発想の根源に二元論があることに注視し、日本はこの二元論と向き合うこと、つまり白黒だけではなくグレーもあるということが共有されることが信頼醸成にもつながると話された。

講演後の質疑応答では、イランとサウジアラビア両国と同時にビジネスを行う場合に注意すべき点について問われると、ビジネスと政治は違うというスタンスをとることが

望ましいとの回答があった。また、宗教対立について意見を求められると、単に宗教的リーダーの話し合いだけでは解決が難しいと思うが、ビジネス関係者や一般の人たちが中心となって声を大きくし対話を増やすことが期待されるとの見解を話された。同時に、ボトムアップ、つまりミクロの面から築いていく（ビジネスや文化交流など）ことに対する期待感を述べられた。

サウジアラビアと米国との関係については、最終的にはサウジアラビアは米国に頼ることになるであろうが、米国一辺倒ではなく、他国にも関係構築を働きかけるようにしているとの見方を示された。

<成 果>

講演後に実施したアンケートの結果、参加者の皆様より高い評価を頂いた。

講演について、「ご自身の経験の中で得られた知見や問題意識を、ビジネス上の実務に役立つ形に落とし込んでお話いただきとても有益な講義でした。」「実務の上で、根底にあるべき理解・態度を説明いただきプラスになった」など有益であったとの感想が多く寄せられた。

今後のセミナーのテーマ設定については、今後のイランとサウジ、GCCの関係について、中東への進出等ご要望を頂いた。今後のテーマ設定の参考としたい。

